

小樽商科大学長 穴沢真氏を選出

小樽商科大は15日、和田健夫学長の任期満了に伴う次期学長選考会議を開き、穴沢真氏(63)を選出した。任期は4年で、今年4月1日付で就任する。

穴沢氏は大阪府出身で、専門は経営学。北大学院



穴沢真氏

で博士号(経済学)。1997年に小樽商大教授となり、2016年から同大国際連携本部長をつとめている。

(佐久間泰雄)

3大学統合 問われる手腕

選考会議で決着「総合的に判断」

和田健夫学長(70)の任期満了に伴う小樽商科大の学長選が15日、ようやく決着した。次期学長に選ばれたのは商学部の穴沢真教授(63)。教職員による投票は同日の再決選投票でも上位2氏が同数という異例の展開。最終的に学内外の委員6人でつくる学長選考会議の協議の結果、穴沢氏に決まった。穴沢氏は4月1日に新学長に就任するが、少子化を受けた他大学との競争激化や帯広畜産大と北見工大との法人統合を控え、強いリーダーシップが求められる。(前野貴大)

少子化、厳しい学生確保

同日の再決選投票は穴沢氏と鈴木将史副学長(61)、片桐由喜教授(55)の3氏が候補者を実施。投票総数165票のうち穴沢氏と鈴木副学長が56票と同数、片桐教授が53票となり、最多得票に2氏が並んだ。

同大の規定ではこの場合、学長選考会議で投票結果の扱いを協議して決めるとしており開票後に同会議を開催。昨年12月4、18日に行われた意向投票と決選投票で、穴沢氏がそれぞれ最多得票だったことや「こ

れまでの面談、本人の所信から総合的に判断」(同大事務局)し、選んだという。同大学長選は当初候補者4氏が名乗りを上げたが昨年12月に2回行った投票でいずれも過半数を得る候補者が出ず、この日の3度目の投票までもつれていた。

穴沢氏は17日に同大で記者会見し、就任の抱負を語る予定だが、今後の大学運営には難しいかじ取りが迫られる。

道教委によると、道内の公私立高の全口制に通つ3

年生は2014年の約4万2900人(5月1日現在)が、19年は約3万9600人(同)に減少。少子化は今後の入学者確保により影響するのは必至で、大学の生き残りの大きな課題だ。さらに帯広畜産大、北見工大との3大学法人統合も迫っており、就任後の手腕が学内外の視線を集めそう



3度の投票でも決まらず、学長選考会議でようやく次期学長が選出された小樽商科大